

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

橋本市教育委員会
主任指導主事 木下 豪人

1. 単元名 「世界へ発信！〇〇中学校区未来プロジェクト」

2. 単元の目標

- ・他者の考え方が、自己の考えを深化・発展させることを知り、発表資料をまとめることができる。 (知識・技能)
- ・過去・現在からよりよい未来をつくるために、今自分たちができることを計画することができる。 (思考・判断・表現)
- ・自分の身近な問題について、グループ内で互い意見を集約し、協力して取り組むことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、職場体験学習を核に「〇〇中学校区未来プロジェクト」と題して、地域の経済や産業について学び、子どもたちの考えを地域に還元する。

その中で、様々な地域人に協力してもらい、キャリアアドバイザーとして複数名に講演やワークショップを行ってもらい、生徒と地域をより密接なものとする。

また、〇〇中学校区の強み、弱みを検証し、「生徒×企業」、「生徒×行政」等で地域産業を活性化させるための1つの方法として商品開発を行う。商品開発をすることで、成果が目に見えるようになり、生徒の自己肯定感を高めることにつながる。

(2) 生徒観

本校の生徒は、全体的に学力とともにコミュニケーション力も非常に低く、全国学調の質問紙でも地域とのつながりが非常に弱い現状がある。本市は地域学校協働本部（共育コミュニティ）の歴史が古く、「地域の子どもは地域で育てる」という風土ができあがっている。また、学校運営協議会も導入し6年目を迎え、学校と地域が話し合う機会は徐々に増えてきた。本単元をきっかけに地域と子どもがつながるきっかけにしたいと考えている。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず地域の商業施設、公共施設や人口推移等を掲示する。このことを通して、〇〇中学校区の現状を把握するとともに、実際に自分たちで足を運び、見学に行き、自分たちが感じた課題を共有させる。

次に、ゲストティーチャーを招き、仕事内容や意義を学ばせる。様々なゲストティーチャーと出会わせ、その人となりや学ばせたことで、自分がどうなりたいか、どんなことをしてみたいかを考えさせる。つながりを持ったゲストティーチャーやプロジェクト部会メンバーとの対話を通じた商品開発やアイデア提供で、自分も地域に貢献できたという実感を通して、授業以外でも地域に貢献できる人に育つようにつなげる。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることを理解している。

有限性…生命や文化財の有限性や自然の大切さを学び、他者との協働の重要性に気付くことができる。

連携性…これからのまちは、地域、企業、行政それぞれがバラバラに活動するのではなく、対話を通して、地域づくりをしていくことが大切である。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

〇〇中学校区に住む住民に、より質の高い生活やよりよい商品等を提案し、その生活の質（QOL）の向上の達成に向けて、計画を立てることができる。

批判的に考える力

インタビューやアンケートなどで様々な方向から客観的な情報を収集し、公平な判断ができる。

多面的・総合的に考える力

地域の良さや課題に気付き、〇〇中学校区をいろいろな視点や立場から考えることができる。

他者と協力する態度

互いの意見を集約しながら、共通の目的を達成（協働）するために行動している。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

作る人も使う人も環境への配慮を意識する必要がある。

・達成が期待されるSDGs

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられる、まちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①積極的にコミュニケーションをとり、よりよい企画を具現化できるようにプレゼン資料にまとめることができる。 ②開発した商品を販売していくために必要なものは何かを考え、今まで身につけた知識や情報を精査する。	①資料をもとに課題を見出し、まちづくりにつながる方策を考えることができる。 ②社会人、職業人としての視点を持ち、課題意識を持って聴くことができるとともに、意見交換を行い、建設的な議論ができる。	①企業と打ち合わせしながら、試作品を完成させる。また、その商品を橋本市内外の人に向けて効果的にPRするためのプレゼン資料を、プロジェクト部会で協力して作成する。 ②社会人としての自覚ある行動と、好奇心と積極性

	③自分たちで考えたプレゼン内容を、コストやアイディアなど評価する側の視点を踏まえて見直すことができる。 ④情報を班員に伝えたり聞いたりすることができる。	を發揮し精力的に職場体験活動に取り組もうとしている。 ③地域活性化のために自主的・主体的に参加し、意欲的に販売活動を行おうとしている。
--	--	---

5. 単元の指導計画（全30時間）

	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1 ～ 3	〇〇中学校区のまちの現状について考える	・探究心、情報収集・分析力、コミュニケーション力等を伸ばし、社会的・職業的自立を目指すために、職場体験を通じた探究活動を行うように促す。 ・地域の商業施設や公共施設等、興味のあるところに訪問させる。 ・それぞれが興味を持ったプロジェクト部会（農業・産業・食品・商品等）に分かれて、検討を始める。	イ① （思判表）
4 ～ 6	キャリアアドバイザー（地域人）による講話	・企画書の作成の仕方や、インタビューの仕方を学び、自分の考えを分かりやすく伝える方法を身につける。 ・地域人材の生き方に触れ、人となりを知ること、生き方、働き方に興味を持たせる。	イ② （思判表）
7 ～ 10	プレゼン資料の作成	・企画書をプロジェクト部会で作成し、商品を具現化し、そのよさを伝えるためのプレゼン資料を作成する。 ・橋本市内外、近隣の高校の「総合的な探究の時間」と連携し、プレゼン資料の作成の仕方などに助言をもらい、協働的な学習に繋げる。	ア① （知理）

11 ～ 12	プレゼン発表 (生徒、教職員、学校運営協議会 委員、地域住民・ボランティア等 に向けて)	・プロジェクト部会ごとに分か れ、企画内容に焦点をあて、第 三者評価及び相互評価による チェックを行う。(Forms 活用) ・自分たちで考えたプレゼン内容 を、コストやアイディアなど評 価する側の視点を踏まえて見 直すことができる。	イ③ (思判表)
13 ～ 14	プロジェクト部会内で、商品開 発・広報・販売のグループに分か れ、仮説を設定する。	・開発した商品を販売していくた めに必要なものは何かを考え、 今まで身につけた知識や情報 を精査し、仮説を設定する。	ア② (知理)
15 ～ 17	試作品の完成	・企業と打ち合わせしながら、試 作品を完成させる。また、その 商品を橋本市内外の人に向け て効果的にPRするためのプ レゼン資料を、部会で協力して 作成する。	ウ① (主体的)
18 ～ 23	職場体験学習	・各職場での体験やインタビュー を通して、職場のよさ(職業の 社会的役割、必要な力、大切に している考え方等)を伝えるた めのアイディアや発信方法を まとめる。 ・社会人としての自覚ある行動 と、好奇心と積極性を発揮し、 職場体験活動に取り組もうと している。	ウ② (主体的)
24 ～ 27	職場体験学習で得た情報を共有 し、ポスター、新聞、PR誌など を作成して、地域に発信する。	・職場体験での経験や、得ること ができる情報を新聞等にまと める。 ・情報を班員に共有することがで きる。	イ④ (思判表)
28 ～ 30	商品販売	・地域の行事に出店し、販売グル ープを中心に、完成した商品を 販売する。 ・地域活性化のために自主的、主 体的に参加することができる。	ウ③ (主体的)